

vgbe Congress 2023 参加報告

“What to do”, “How to do”から”How to accelerate”へ

火力原子力発電技術協会 国際交流部会

2023年9月20日、21日にベルリンで開催された vgbe Congress 2023（以下、大会）に参加し、その報告を協会誌「火力原子力発電」の2023年11月号に掲載しました。大会の概要を以下に記載しますが、協会誌の報告では、基調講演とそれに続くパネルディスカッション、各講演の内容などを記載しました。ぜひご覧ください。

【vgbe Congress 2023 の概要】

昨冬のエネルギー危機を乗り越えた欧州は、いよいよカーボンニュートラルに向けた取り組みを本格化させ、脱炭素と電力・エネルギーの安定供給をどう両立させるか、脱炭素社会をいかに実現するかという観点から **”Security of Supply and energy transition - mission impossible?”** というテーマで大会が開催された。EU 及び欧州各国は、脱炭素社会の実現に向けて石炭火力の廃止、再生可能エネルギー（再エネ）の導入促進を掲げているが、それを達成するには非常に困難な数値をクリアせねばならない。今年の大会は、その困難な数値をいかに達成するか、再エネ導入をいかに加速するかが論点であった。



パネルディスカッションの様子

（出典：Robert Hausmann, Basel 2023,

<https://gallery.vgbe.energy/index.php?/category/28>)



会場近くのブランデンブルク門
（柱には環境団体によりかけられた塗料の跡が残っていた）

パネルディスカッションでは国会議員、政府関係者なども交えて活発な議論が行われ、脱炭素社会に実現に向けては電力に限らず運輸などの他産業、農業、社会生活などでも変革が必要であるが、社会全体に気候変動対策の必要性に関する意識醸成が進んでいること、矢継ぎ早な政策でエネルギー変革をサポートしていることなどから、継続的な技術開発は必要であるものの **“Mission possible”** という結論でパネルディスカッションが纏められた。

ドイツの大手電力会社は、再エネ設備の増強とともに石炭火力発電所の水素混焼を視野に入れたガス火力への改造を進めている。またグリーン水素の製造にも力を入れており、水素製造プロジェクトも各地で展開している。オーストリアの会社は電力と熱の供給に、既に水素15%混焼の試験運用をしており、水素輸送の課題などが報告された。また認証機関も水素対応設備の認証に向けた活動を推進

しており、既にガスタービンコンバインドサイクルについては水素対応ガイドラインを発行し、その概要や認証事例について報告が行われた。このほか、水素貯蔵プロジェクト、水素対応エンジンの開発、洋上風力や太陽光発電の大量導入で不可欠となる調整力対策としての大容量バナジウム・フロー電池、大型同期調相機の導入事例など紹介された。

DX についても多くの発表があり、既設発電所の効率的な運用、コスト削減事例などの紹介とともに、分散電源の制御、サイバーセキュリティなど最新の事例が紹介された。

脱炭素社会の実現には、おびただしい量の再エネ発電所の拡充に加え、水素対応/負荷調整技術の導入等必要となるが、欧州各国の積極的な取り組みの一端を垣間見ることができた。

(会誌リンク, URL)

<https://www.tenpes.or.jp/personal/>

会員ページにログイン後、“会員サービス (1)” の“会誌 (電子ジャーナル版) の検索・閲覧”、“会誌一覧” とアクセスし、“2023 年 11 月号目次” から詳細報告をご覧になれます。